

Village international d'artistes du département de Nara

第1回奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

平成27年6月5日(金)

奈良県地域振興部

(仮称) 奈良県国際芸術家村構想

■ 奈良県国際芸術家村構想の検討

奈良県は、大和三山や青垣、生駒・葛城連山に囲まれた奈良盆地を中心に伝統と伝承を守り続けてきました。その美しい風土とそこに暮らす先人達が歴史と文化を引き継いできました。奈良は、日本の原点となった地です。数多い古墳群や遺跡は現在も私たちに驚かせてくれる、ロマンの地です。また、神社仏閣は多くの国宝や重要文化財として維持保存され、日本文化の礎となっています。

そのような歴史と伝統・伝承の文化を受け継ぎ、後世に伝え、若い人々にも伝承の匠の技を伝え、育てていくことが奈良県に課せられた大きなミッションと考えています。今、奈良から世界へ、世界から奈良へと歴史・文化情報の交流を図り、国内外の教育機関や行政と連携・協働を図っていくことが大切です。

そこで奈良県では、歴史・文化、そして匠の伝承と保存・修復を行い、交流と教育のできる施設として(仮称)奈良県国際芸術家村構想を進めます。

■ 主要な施設(案)

- ①教育・研究ゾーン
- ②文化財修復ゾーン
- ③人材養成ゾーン
- ④交流・憩いゾーン

(眺望のよいレストラン、宿泊施設含む)



I 構想の要点と、施設計画への展開

■ 1 コンセプト

国内外の大学が活用できるサテライトキャンパスを整備する。

併せて、奈良の特色ある文化・芸術を、現在に活かし後世に伝えるため、その教育・研究・活動の場を整備し、人材の養成と後継者の確保、県民への文化活動の機会の提供を図ることを目的とする。

- ・ 国内外の大学のサテライトを整備
- ・ 奈良の文化・芸術を活かし後世に伝える



- ・ 県内大学にない多様な大学の研究拠点
- ・ 人材養成と後継者確保
- ・ 県民への文化活動の機会提供

■ 2 施設設置・運営

施設整備は奈良県、運営は委託も含めて運営手法を検討する。

なお、収支バランスを考慮した整備・運営をめざす予定。

また、施設整備にかかる財源の確保も重要



- ・ 整備財源の確保
- ・ 収支バランスのとれた整備・運営の検討
- ・ 同種施設の視察（例. 滋慶学園びわこクラブ湖邸滋）
- ・ 運営手法の研究



検討委員会で検討



I 構想の要点と、施設計画への展開

3 設置する施設

①教育・研究ゾーン

②文化財修復ゾーン

③人材養成ゾーン

④交流・憩いゾーン

(眺望のよいレストラン、宿泊施設含む)

<配置(案)>

- ・講座室、研究室、工房、窯
- ・図書室、談話室
- ・文化財修復作業、工作室、乾燥室
- ・レストラン、シャワー室、多目的ホール、宿泊施設
- ・駐車場(大型含む) 等



<施設計画への展開>

- ・教育・研究・実習
セミナー室、研究室、工房各種
陶芸・瓦の窯、一部作品展示
- ・業務及び作業
文化財修復室(絵画、書、彫刻 他)
工作室、乾燥室各種
- ・史料・調査
図書室、調査室、談話室、資料室、ICT
- ・コミュニティー
レストラン、多目的ホール、障害者の芸術活動拠点
宿泊(一般、セミナー)、浴場、シャワー、物産品店
サイクルステーション
- ・駐車場

4 併設機能

- ・文化財修復国際センター
- ・日本文献英語翻訳研修センター
- ・日本史料活用センター



<施設計画への展開>

- ・文化財修復のための本格的作業場(X線・CT等の調査)
- ・翻訳のための施設及び研修
- ・日本の史料・文献・蓄積・利活用のための設備
- ・交流拠点

I 構想の要点と、施設計画への展開

5 運用

提携大学等のサテライト・キャンパス、 セミナーハウス機能

- ・国内外の大学との連携を想定
- ・奈良を拠点とするフィールドワーク・長期研究対応

匠の継承

- ・奈良うるし、大和かわら、宮大工等
- ・匠の技術の伝承→ 工房・人材育成

文化活動

- ・分校利用の大学教員・講師等による文化セミナー等開催
- ・県民に対する文化活動の拠点
- ・障害者の芸術活動拠点

学び・やすらぎ・交流の拠点

- ・分校利用関係者・学会等の教育研究拠点
- ・市民にも開放された眺望の良いレストラン、宿泊施設等による交流拠点

経営の健全性の確保

- ・国際芸術家村のコンセプトを実行しながらも、収支バランスのとれた経営となる取り組みとする。

<施設計画への展開>

- ・情報受発信と、提携大学間連携とNETWORK
セミナーハウス機能のためのスペース確保
- ・奈良をフィールドワークとする長期滞在研究室
史料、資料、研究、分析

<施設計画への展開>

- ・実習・伝承・製作
- ・育成のための教室と設備
- ・作品の展示・販売

<施設計画への展開>

- ・文化活動の場づくり
県民の文化活動のスペース及び国内外との交流、
イベントホール
- ・文化セミナー、研修のためのスペース

<施設計画への展開>

- ・教育、研究拠点のためのスペース、分校のための規準施設作り
- ・レストラン及び宿泊施設
(セミナー、学生、一般、県民、海外)

<施設計画への展開>

- ・収支バランスを考えた運営手法の検討
- ・直営、雇用(正採、臨時職員)、委託等
- ・ランニングコストのかからない施設整備

国指定伝統的工芸品

高山茶筌、奈良筆

県指定伝統的工芸品

赤膚焼、吉野手漉き和紙
奈良団扇、奈良晒、鹿角細工
木製灯籠、大塔坪杓子、栗木細工
くろたき水組木製品
吉野杉桶・樽、三宝、神酒口
大和指物、大和出雲人形
笠間藍染、高山茶道具

その他

奈良一刀彫、奈良漆器
奈良墨、面、象牙撥鏝

Ⅱ 奈良県国際芸術家村 設置場所の検討

■ VI 施設の候補地

候補地の一本化



検討委員会で検討

○県が国際芸術家村を設置する用地選定の基準として、特に重視する項目（案）

①土地取得の容易性

- ・ 県有地又は市町村から推薦があった土地（所有者が一人又は少数）
- ・ 用地は借地ではなく、買収できる土地であること。
- ・ 用地の買収金額が妥当であること

②アクセスの容易性

- ・ 鉄道やバス、主要幹線道とのアクセスが良好な土地
- ・ 市町村との連携により、一定のアクセスが見込める場合も可

③造成・建築の容易性

- ・ 埋蔵文化財等の調査で工期の遅延が生じない土地
- ・ 造成工事や建築工事で無理のない土地

④地元市町村との連携

- ・ 国際芸術家村と市町村の地域振興（まちづくり含む）と一体となった取り組みが見込めること。

Ⅱ 奈良県国際芸術家村 設置場所の検討

①奈良市: 県有地
奈良工業高校跡



④橿原市: 県有地
県立橿原公園周辺



②大和郡山市: 県有地
県立民俗博物館周辺



③天理市推薦: 3ヵ所(私有地)
杣の内地内、竹之内町内
乙木町内



(杣の内地内)



(竹之内地内)



(乙木町地内)

Ⅱ 奈良県国際芸術家村 設置場所の検討

■ 候補地①案 : 旧県立奈良工業高等学校

項目	概要
名称	旧奈良工業高等学校
所在地	奈良市秋篠町1277-1
現状	旧工業高校 23棟の建物あり
面積	63,244㎡
土地所有者	奈良県
交通アクセス	近鉄あやめ池駅より徒歩15分 奈良交通バス停から徒歩3分
周辺施設	特になし
課題	周辺は、住宅地のため開発等には時間がかかる土壌には鉛や六価クロム等の土壌汚染の問題があり、対応には時間がかかる見込み。
備考	



(正面入口から撮影)

(正面入口から撮影)

Ⅱ 奈良県国際芸術家村 設置場所の検討

■ 候補地②案 : 県立民俗博物館周辺

項目	概要
名称	民俗博物館
所在地	大和郡山市矢田町545
現状	博物館、公園
面積	26.6ha
土地所有者	奈良県
交通アクセス	矢田東山バス停から徒歩約10分程度
周辺施設	奈良工業高等専門学校
課題	民俗博物館の周辺は一般住宅地であり、他の関連施設との連携は困難



(民俗博物館正面入口)



(多目的広場)



(駐車場)



(隣接する奈良工業高等専門学校)

Ⅱ 奈良県国際芸術家村 設置場所の検討

■ 候補地③案 : 天理市杣の内地内

項目	概要
名称	天理教杣の内グラウンド
所在地	天理市杣の内地内
現状	粗造成グラウンド、山林(古墳)
面積	17ha
土地所有者	天理教及び天理教関係者
交通アクセス	JR・近鉄天理駅南東約2km 徒歩約30分程度
周辺施設	天理大学・参考館・天理大学図書館 山の辺の道
課題	提案のあった土地は、市街化調整区域の風致地区内にあり、古墳の可能性あり。 当該敷地の地下を大和平野土地改良区の送水管が敷設されている。
備考	天理市から提案のあった土地 周辺より高台に位置し、南側で池に隣接している。 池の外周は遊歩道として活用可能



(天理参考館)



(天理大学図書館)



(西側道路からの眺め)



(敷地西側グラウンド部分)



(南側の池対岸からの眺め)



(北側道路からの眺め)

Ⅱ 奈良県国際芸術家村 設置場所の検討

■ 候補地④案 : 橿原公苑周辺

項目	概要
名称	橿原公苑
所在地	橿原市畝傍町53
現状	陸上競技場、佐藤薬品スタジアム 等
面積	
土地所有者	奈良県
交通アクセス	近鉄畝傍御陵前から徒歩5分
周辺施設	橿原考古学研究所、同附属博物館
課題	周辺は住宅と橿原神宮に挟まれた土地であり、拡張が困難



Village international d'artistes du département de Nara

第1回奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

＜事務局作成コンセプトイメージ＞

平成27年6月5日(金)

奈良県地域振興部

(仮称) 奈良県国際芸術家村のコンセプトイメージ例



(鳥瞰イメージ)



(池の畔に建つイメージ)



(候補地の例として、山麓をイメージ)

- | | | |
|------------|--|--------------------------|
| A:教育・研究ゾーン | I 棟: 教育・研究棟 (セミナー室、研究室等) | 2,700㎡ (2階建て) |
| B:文化財修復ゾーン | II 棟: 文化財修復棟 (作業所、一時保管所等) | 2,100㎡ (3階建て) |
| C:人材養成ゾーン | III 棟: 人材養成棟 (匠の伝承研修
日本文献英語翻訳研修
日本史料活用) | 2,900㎡ (3階建て) |
| D:交流・憩いゾーン | | 4,400㎡ (2階建て(サイクルSのみ平屋)) |
| | IV 棟: ホテル(ツイン20室)、レストラン・カフェ(800㎡)、セミナー・講座室(200名) | } |
| | V 棟: 長期滞在(10室)、合宿所(20名2室) | |
| | VI 棟: サイクルステーション(ミニマルシェ、トイレ、シャワー、観光案内所) | |
| | | 延床面積計 12,100㎡ |

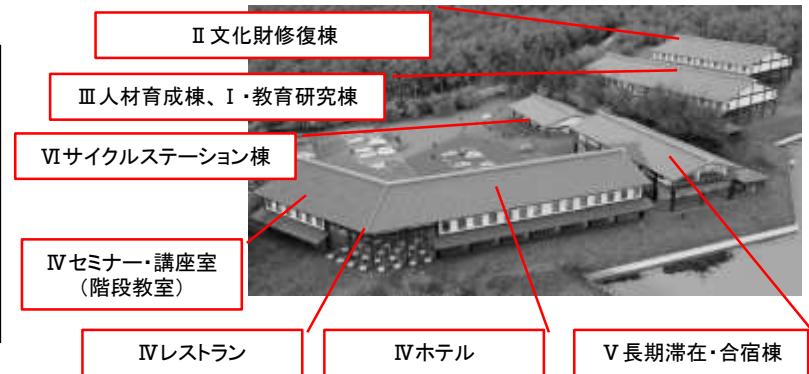
※敷地面積は3ha程度を想定
※最大宿泊者人数:100名



(レストランイメージ)



(セミナー・講座室: 学会、コンサートにも活用)



A:教育・研究ゾーン

■ 提携大学の分校・セミナーハウス機能

- ・セミナールーム
- ・工房
- ・教員研究室
- ・宿泊施設(長期滞在系・合宿系)



<施設規模の検討(案)>

検討施設	規模想定根拠	面積
セミナールーム・講座室	40名 × 5室=200名	1000㎡ うち300㎡は地域交流拠点として レストランに隣接して配置。階段 講義室
実習工房(漆・瓦・宮大工等の伝統工芸系)	伝統系 120㎡ × 4室 一般 100㎡ × 4室	880㎡
研究室各分野	50㎡ × 8室	460㎡
事務系	60㎡	60㎡
長期滞在者向け及びセミナー合宿所	(D. 交流・憩いゾーンで算定)	—
	小計	2100㎡+300㎡
	共用部面積割増 × 1.3	2730㎡+390㎡ (約2,800㎡+400㎡)

B:文化財修復ゾーン

■ 文化財修復国際センター機能

- ・一時保管庫
- ・作業所
- ・打合せ



<施設規模の検討(案)>

検討施設	規模想定根拠	面積
美術・文化財一時保管庫 (温湿度管理・光・塵・防虫・防鼠)	保管庫300㎡+準備室50㎡	350㎡
文化財種別修復 (空調コントロール、絵画・書・仏像・彫刻・漆、裂、建築物等)	120㎡×6室	720㎡
会議室・打合せコーナー型(ブース型、各種別)	会議室 40㎡×2室 打合せ 20㎡×4ヶ所	160㎡
診断・調査(X線、CT等)	120㎡	120㎡
事務系	30㎡	30㎡
	小計	1380㎡
	共用部面積割増 ×1.5	2070㎡ (約2,100㎡)

C: 人材養成ゾーン

■ 日本文献英語翻訳研修

- ・作業所
- ・セミナー
- ・展示・閲覧



■ 匠の伝承承継機能

- ・工房
- ・セミナー



■ 芸術家活動支援機能

- ・工房
- ・展示、物販
- ・宿泊(長期滞在型)



< 施設規模の検討(案) >

検討施設		規模想定根拠	面積
文献 翻訳	翻訳室	翻訳室: 20㎡ × 3室 資料室: 100㎡	160㎡
	セミナー室	30人 × 5室=150人	150㎡
	展示・閲覧・図書コーナー	200㎡	200㎡
匠の 伝承	実習室・伝承・工房(各種別: 漆・瓦・宮大工・墨他)	120㎡ × 4室	480㎡
	セミナー室	70㎡ × 4室 道具他: 80㎡	360㎡
芸術家 支援	工房(各種別)	60㎡ × 5室	300㎡
	展示・イベントコーナー、物販	250㎡	250㎡
	中長期滞在型宿泊施設	(D: 交流・憩ゾーンで算出)	—
小計			1900㎡
共用部面積割増 × 1.5			2850㎡ (約2900㎡)

D: 交流・憩いゾーン

■ 交流・憩いゾーン ～ハイカー・サイクリストの休憩施設～

- ・着地型観光案内
- ・シャワールーム
- ・産直販売
- ・駐車・トイレ・東屋・散策



<施設規模の検討(案)>

検討施設	規模想定根拠	面積
観光案内所・休み処・トイレ	200㎡	200㎡
シャワーブース・脱衣	3ブース+脱衣: 25㎡×2(男女)	50㎡
ミニマルシェ・売店・ワゴンセール(賑わい)	マルシェ・売店: 100㎡ 外部賑わいゾーン	100㎡
大型車対応もできる駐車場・散策路・東屋	—	—
		小計 350㎡
	共用部面積割増 × 1.3	455㎡ (約450㎡)

D: 交流・憩いゾーン

■ 交流・憩いゾーン ～眺望の良いレストラン～

- ・来所、入所者交流ゾーン
- ・ハイカー・サイクリスト向け軽食、喫茶



<施設規模の検討(案)>

検討施設	規模想定根拠	面積
レストラン（和・洋）	レストラン200㎡+デッキテラス	200㎡
カフェ・軽食（麺類・パン類・カレー等）	200㎡	200㎡
厨房	200㎡	200㎡
小計		600㎡
共用部面積割増 × 1.3		780㎡(約800㎡)

■ 宿泊施設

- ・ホテル
- ・長期滞在
- ・コテージ、合宿所



< 施設規模の検討(案) >

検討施設	規模想定根拠	面積
観光・来訪・インバウンド客等	ホテル20室(オーベルージュ)	1500㎡
研究者の寮的な宿泊施設(長期滞在)	1LDK 40㎡×8室 70㎡×3室 共用部割増1.3	600㎡
セミナー向けコテージ・合宿所	20人×2室=40人×10㎡/人=400㎡ リビング・交流:50㎡ 共用部割増1.4	650㎡
居住用	3LDK 120㎡×3戸(テラスハウス形式)	360㎡

■ 文化活動機能

・県民の文化活動支援及び交流拠点



< 施設規模の検討(案) >

検討施設	規模想定根拠	面積
イベントホール	教育研究ゾーンのセミナー室を利用	—
交流室・会議室	教育研究ゾーンのセミナー室を利用	—
	小計	—
	共用部面積割増	—

総括

A:教育・研究ゾーン	小計 2,700m ²	—————	<u>I棟</u> 教育・研究棟
B:文化財修復ゾーン	小計 2,100m ²	—————	<u>II棟</u> 文化財修復棟(別棟)
C:人材養成ゾーン	小計 2,900m ²	—————	<u>III棟</u> 人材養成棟
D:交流・憩ゾーン	小計 4,760m ²		
ホテル(1500m ²)、レストラン・カフェ(800m ²)、セミナー室(400m ²)	: 2700m ²	—	<u>IV棟</u> ホテル・レストラン・交流棟
居住棟(360m ²)	: 360m ²	—	<u>V棟</u> 居住棟長期滞在・合宿棟
長期滞在(600m ²)、合宿所(650m ²)	: 1250m ²	—	<u>VI棟</u> 長期滞在・合宿棟
ハイカー・サイクリスト	: 450m ²	—	<u>VII棟</u> ハイカー・サイクリスト棟 +外部賑わい空間
計 12,460m ²			7棟で計画

(仮称) 奈良県国際芸術家村構想 (案)

- ・国(総務省、文部科学省)が地方への大学サテライトキャンパスの設置を進めていることに呼応して、奈良県では、大学のサテライトキャンパス誘致に向けて検討。(奈良の特色を活かし、文化・芸術系の学部の受入も視野)
- ・奈良県では、このサテライトキャンパスの招致と併せて、奈良の特色ある文化・芸術を、現在に活かし後世に伝えるため、人材の養成と後継者の確保、県民への文化活動の機会の提供にも活用することを目的として、(仮称)奈良県国際芸術家村構想を推進する。

I. 施設設置・運営

- ・整備は奈良県、運営は委託も含めて手法を検討
同様の施設を視察、施設や運営方法の調査開始
※収支バランスを考慮した、整備・運営を目指す。

II. 設置施設 (案)

- ①教育・研究施設
- ②文化財修復施設
- ③人材養成施設
- ④レストラン宿泊施設

※障害者の芸術活動拠点の検討

〈設置する機能(案)〉

- ・講座室、研究室、工房、窯
- ・図書室、談話室
- ・文化財修復作業室、工作室、乾燥室
- ・レストラン、シャワー室、多目的ホール、宿泊所
- ・駐車場(大型含む) 等

III. 併設する機能

- ・文化財修復国際センター
- ・日本文献英語翻訳研修センター
- ・日本史料活用センター



IV. 設置場所及び施設の機能の検討

設置場所の選定、施設の整備内容、運営手法等は別途設置する「奈良県国際芸術家村構想等検討委員会」で検討

- ・検討委員会は4月設置

委員候補 (案)

氏名	所属・元職等	備考
佐藤 禎一	元文部事務次官	
大沼 淳	日本私立大学協会会長	
松浦晃一郎	元ユネスコ事務局長	
浮舟 邦彦	滋慶学園グループ総長	経営、運営
網谷 幸二	東京藝大名誉教授	東京藝大代表
小林 真理	東京大学大学院准教授	
菅谷 文則	橿原考古学研究所所長	

V. 芸術家村の運用

- ・提携大学等のサテライト・セミナーハウス機能
国内外の大学との連携を想定。
奈良を拠点とするフィールドワークや長期研究にも対応

県との協定により、大学のサテライトキャンパスとして必要な講座室や芸術系に必要な工房等の機能と宿泊施設をリーズナブルに利用していただく予定(長期滞在も可能)

※県では、これと併せて以下の機能を盛り込む

・匠の継承

奈良うるし、大和かわら、社寺大工等の匠の技術の伝承を行うための工房等を備えた人材(後継者)育成施設



・文化活動

利用する大学教員や非常勤教員による文化セミナー等を開催。県民に対する文化活動の拠点。



・学び・やすらぎ・交流の拠点

- ①利用する大学教員、研究者等や学会等の教育・研究拠点
- ②市民にも開放された眺望のよいレストランや宿泊施設等による交流拠点
(宿泊は100名程度)

